

特定非営利活動法人 日本心臓リハビリテーション学会
第10回 近畿支部 地方会 プログラム・抄録集
地域の中での心臓リハビリテーション



会期 2025年2月9日（日）

会場 京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）

会長 今井 優（医仁会武田総合病院 疾病予防センター）

副会長 井澤 和大（神戸大学 生命・医学系保健学域）

事務局 日本心臓リハビリテーション学会事務局

第10回 近畿支部地方会 黒瀬聖司（関西医科大学 健康科学センター）



日本心臓リハビリテーション学会 第10回近畿地方会

プログラム・抄録集

【会期】 2025年2月9日（日）

【会場】 京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）

【会長】 今井 優

（医仁会武田総合病院 疾病予防センター）

第10回日本心臓リハビリテーション学会近畿地方会

開催のご案内

第10回日本心臓リハビリテーション学会

近畿地方会 会長

今 井 優

(医仁会武田総合病院 疾病予防センター)

この度、第10回心臓リハビリテーション学会近畿地方会を京都テルサで開催させていただきます。

この節目の回に会長を拝任し、京都で開催できますことを光栄に存じます。会長は健康運動指導士、副会長は理学療法士という二人で進めてまいります。

テーマは「地域の中での心臓リハビリテーション」といたしました。

近年は、対象者が様々な心臓、大血管疾患患者に拡がり、重複疾患、低心機能患者に対して個々の急性期リハビリテーションが行われています。

退院後の心臓リハビリテーション実施必要度が増しており、回復期リハビリテーション、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションでの対応に期待が高まっています。

また、医療法42条施設、健康増進・指定運動療法施設での維持期心臓リハビリテーションの実施も同じく重要性が増しています。

そんな中、急性期から維持期へと繋げていく心臓リハビリテーションに、地域の特徴を生かして取り組まれている施設が増えています。本会では、各施設での特色ある取り組みを、近畿全体に伝えたいと考えています。

学会の進行は、一度原点に戻り小規模な進行で充実したものにしております。

心臓リハビリテーション学会本会が30周年を迎えた記念の年度に、当地方会が10年の節目を迎える今回、実りのある会にすることを目指しております。

会の運営に際しましては、各幹事・評議員の先生方のお力添えを賜りながら行って参ります。

貴社におかれましても、本会の趣旨にご賛同をいただき、ご協賛を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目 次

ごあいさつ	3
近畿支部 役員	5
日本心臓リハビリテーション学会支部制度規則	7
会場周辺図	12
会場案内図	13
参加者の皆様へ	14
日程表	17
プログラム	19
抄録	
会長講演	32
特別講演	33
教育講演	34
シンポジウム	35
CPX セミナー	43
一般演題	45

近畿支部 役員

支 部 長	宮 脇 郁 子	神戸大学
副支部長	古 川 裕	神戸市立医療センター中央市民病院
幹 事	民 田 浩 一	社会医療法人愛仁会 明石医療センター
幹 事	林 秀 樹	宇治武田病院
幹 事	井 澤 和 大	神戸大学大学院
幹 事	坂 田 泰 史	大阪大学
幹 事	谷 口 良 司	兵庫県立尼崎総合医療センター
幹 事	今 井 優	医仁会武田総合病院 疾病予防センター
幹 事	小 笹 寧 子	高の原中央病院
幹 事	黒 瀬 聖 司	関西医科大学
幹 事	仲 村 直 子	神戸市立医療センター中央市民病院
幹 事	鷺 田 幸 一	兵庫県立尼崎総合医療センター
幹 事	笹 沼 直 樹	兵庫医科大学病院
幹 事	坂 田 泰 彦	国立循環器病研究センター
幹 事	近 藤 博 和	公益財団法人 天理よろづ相談所病院
庶務幹事	白 石 裕 一	京都府立医科大学

近畿支部 支部評議員

評議員	衣川 徹	(医) きぬがわ内科循環器内科
評議員	高橋 敬子	兵庫医科大学
評議員	田中 希	京都大学
評議員	細川 了平	医聖会 八幡中央病院
評議員	吉内 佐和子	関西医科大学附属病院
評議員	小西 治美	国立循環器病研究センター
評議員	小林 昇	横山駅前ハート内科クリニック
評議員	水谷 和郎	六甲アイランド甲南病院
評議員	羽田 龍彦	羽田医院
評議員	中西 道郎	医療法人 中西医院
評議員	本多 祐	兵庫県立はりま姫路総合医療センター
評議員	岡田 健一郎	医療法人社団ゆみの のぞみハートクリニック
評議員	林 宏憲	医療法人 CCR 林ハートクリニック
評議員	木股 正樹	市立大津市民病院
評議員	若林 孝明	済生会滋賀県病院
評議員	豊福 守	日本赤十字社和歌山医療センター
評議員	川上 利香	大阪府済生会吹田病院
評議員	中根 英策	北野病院
評議員	小林 成美	神戸大学大学院医学研究科
評議員	伊藤 健一	奈良学園大学
評議員	中川 理	市立豊中病院
評議員	大石 醒悟	医療法人社団まほし会 真星病院
評議員	星賀 正明	大阪医科薬科大学病院
評議員	川口 民郎	滋賀医科大学医学部附属病院
評議員	横松 孝史	三菱京都病院
評議員	谷本 貴志	和歌山県立医科大学
評議員	森下 好美	もりした循環器科クリニック
評議員	上坂 建太	北野病院
評議員	中川 義久	滋賀医科大学
評議員	野口 暉夫	国立循環器病センター
評議員	大久保 英明	甲南医療センター
評議員	村田 誠	国立循環器病研究センター
評議員	笠井 健一	松下記念病院
評議員	村井 亮介	神戸市立医療センター中央市民病院

日本心臓リハビリテーション学会支部制度規則

第1章 総 則

(支部の設置)

第1条 日本心臓リハビリテーション学会（以下「本学会」という。）は、定款施行細則第45条に基づき、次の各地方に支部（以下「支部」という。）を置く。

- (1) 北海道支部：北海道
- (2) 東北支部：青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県
- (3) 関東甲信越支部：新潟県、群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都
神奈川県、山梨県、長野県
- (4) 北陸支部：富山県、石川県、福井県
- (5) 東海支部：静岡県、愛知県、岐阜県、三重県
- (6) 近畿支部：滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
- (7) 中国支部：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- (8) 四国支部：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- (9) 九州支部：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

2. 支部は、定款第4章に定める理事会（以下「本部理事会」という。）の議決により、合併、分割及び区分変更をすることができる。

(支部の構成)

第2条 支部は本学会の会員をもって構成する。

2. 本学会の会員は、勤務地の所在する県が所属する支部に所属するものとする。
3. 勤務地のない会員については、住所地の県が所属する支部に所属するものとする。

(事務局の設置)

第3条 支部に事務局を置く。

2. 事務局は、支部長が指定する施設に置くことができる。

第2章 目的および事業

(目的)

第4条 支部は、当該地方における本学会及び心臓リハビリテーションに関する学術研究の振興、人材育成、啓発を図ることを目的とする。

(事業)

第5条 支部は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学術集会（以下「地方会」という。）の開催
- (2) 幹事会・評議員会の開催、地方会開催に関連する会議の開催

第3章 支部役員

(支部役員)

第6条 第1条の各支部に次の役員を置く。

- (1) 支部幹事 5人から20人程度
- (2) 庶務幹事 1～2人

2. 支部幹事のうち、1人を支部長、1人を副支部長とする。

(選任等)

- 第7条 支部幹事は、前任の支部長、副支部長又は支部幹事の推薦により、前記の支部幹事会が選任する。
2. 支部長は、支部幹事の互選とする。
 3. 副支部長は、支部長が指名し、支部幹事会の承認を得る。
 4. 庶務幹事は、支部会員の中から支部長が指名し、支部幹事会の承認を得る。

(職務)

- 第8条 支部長は、支部の業務を総理する。
2. 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故があるとき又は支部長が欠けたときは、その職務を代行する。
 3. 支部幹事は、支部幹事会の決議に基づき、支部の事業を企画しこれを遂行する。
 4. 庶務幹事は、支部の運営に必要な業務を行う。

(任期等)

- 第9条 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。
2. 補欠のため又は増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
 3. 役員は、任期満了後においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

(欠員補充及び解任)

- 第10条 支部役員欠員補充及び解任は、定款第17条及び同18条を準用する。
2. 前項の場合、定款中「理事長」とあるのは「支部長」、「理事」とあるのは「支部幹事」、「理事会」又は「総会」とあるのは「支部幹事会」とする。

第4章 会議

(種別)

- 第11条 支部の会議は、支部幹事会とする。

(支部幹事会の構成)

- 第12条 支部幹事会は、支部幹事をもって構成する。

(支部幹事会の権能)

- 第13条 支部幹事会は、次の事項を決議する。
- (1) 地方会会長の選任
 - (2) 支部における事業計画及び事業報告
 - (3) 支部長及び支部評議員の選任
 - (4) 次期支部幹事の選任
 - (5) その他必要と認めた事項
2. 前項により決定した事項については学会本部理事会の承認を得る。
 3. 前項により決定した事項は支部会員に周知する。

(支部幹事会の開催)

- 第14条 支部幹事会は、年1回以上開催する。

(この規則に定めのない事項)

第15条 支部幹事会に関し、この規則に定めがない事項については、定款第33条、第38条の例による。

2. 前項の場合、定款に「理事会」とあるのは「支部幹事会」、「理事長」とあるのは「支部長」、「理事」とあるのは「支部幹事」とする。

第5章 地方会

(目的)

第16条 地方会は、支部会員の研究発表の場とする。

(地方会の開催)

第17条 地方会は、年1回以上開催し、その時期については本部会計年度末の時期を考慮して決定する。

(地方会会長)

第18条 地方会に会長(以下「地方会会長」という。)を置く。

2. 地方会会長は原則支部幹事より選任する。ただし、庶務幹事・支部評議員からの推薦も差し支えないが支部幹事を副会長に置く。

(地方会会長の職務)

第19条 地方会会長は、地方会を主宰する。

第6章 会計

(支部の事業年度)

第20条 各支部の事業年度は、毎年5月1日に始まり翌年4月30日に終わる。

(支部の事業計画及び予算)

第21条 各支部の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎事業年度ごとに支部長が作成する。

2. 支部長は、本学会本部の理事会に対し、前項の事業計画書及び収支予算表を提出する。

3. 余剰金とは、地方支部に分配(預託)していた金額を含めた各支部収支差額から、分配金(預託)及び税金等を差し引き余った金額とする。

4. 余剰金が出た場合、地方会開催以外の活動を可能とするが、支部の活動ではなく、地方会制度部会の事業とする。地方会制度部会は、部会内の意見を取りまとめ、当該支部の活動内容を決め、活動計画に関して理事会承認後、余剰金の出た当該支部に伝える

※税金の計算は共催費、展示代の合計金額の20%の金額の30%とする。

(支部の事業報告及び決算)

第22条 各支部の会計は、最終的に本部で取りまとめることとし、定款第6章に定める会計に合算する。

(地方会の会計)

第23条 地方会の会計は、地方会会長がつかさどる。

2. 地方会会長は、地方会の運営につき独立採算の努力をする。

3. 地方会の計画及びこれに伴う収支予算は、地方会開催ごとに地方会会長が作成する。

4. 地方会会長は、地方会終了後、速やかに見積書等を本部に提出し、本部事務局にて収支報告書を作成し、地方会会長に報告する。

第7章 支部評議員会

(支部評議員)

第24条 各支部に評議員を置く。

2. 支部評議員の定数は、20人以上50人以下とする。

(支部評議員の選任)

第25条 支部評議員は、支部長、副支部長又は支部幹事が支部会員の中から推薦し、支部幹事会において選任する。

(支部評議員の任期)

第26条 支部評議員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。

(支部評議員会)

第27条 各支部に支部評議員会を置く。

2. 支部評議員会は、支部評議員をもって構成する。

3. 支部評議員会は年1回以上開催する。

4. 支部長は、支部評議員会に対し、支部幹事会決定事項を報告する。

(支部評議員会の権能)

第28条 支部評議員会は、支部長の諮問に応じ、支部の運営に関する助言をする。

第8章 規則の改廃

(規則の改廃)

第29条

この規則の改廃は、本部理事会の決議を経て、本学会の理事長がこれを行うことができる。

2. 理事長は、本部評議員会に対し、前項の改廃を報告するものとする。

附則

1 支部幹事は、次の条件を満たす者であることを要する。

(1) 就任年度の5月1日現在で満65歳未満であること。

(2) 定款第9章に定める評議員（以下「本部評議員」という。）であること。

(3) 支部幹事にふさわしい実績があること。

2 支部評議員は、次の条件を満たす者であることを要する。

(1) 就任年度の5月1日現在で満65歳未満であること。

(2) 支部評議員にふさわしい実績があること。

3 地方会会計は、次のとおりとする。

(1) 各支部には本学会本部から毎年一定額を預託する。これを「分配金」という。

(2) 地方会会長は参加者に対し参加費を徴収することができる。

(3) 地方会開催の案内、プログラム作成、郵送などにかかわる経費、招待講演者の謝礼などに充てる。

4 各支部の初代役員は、次のとおりとする。

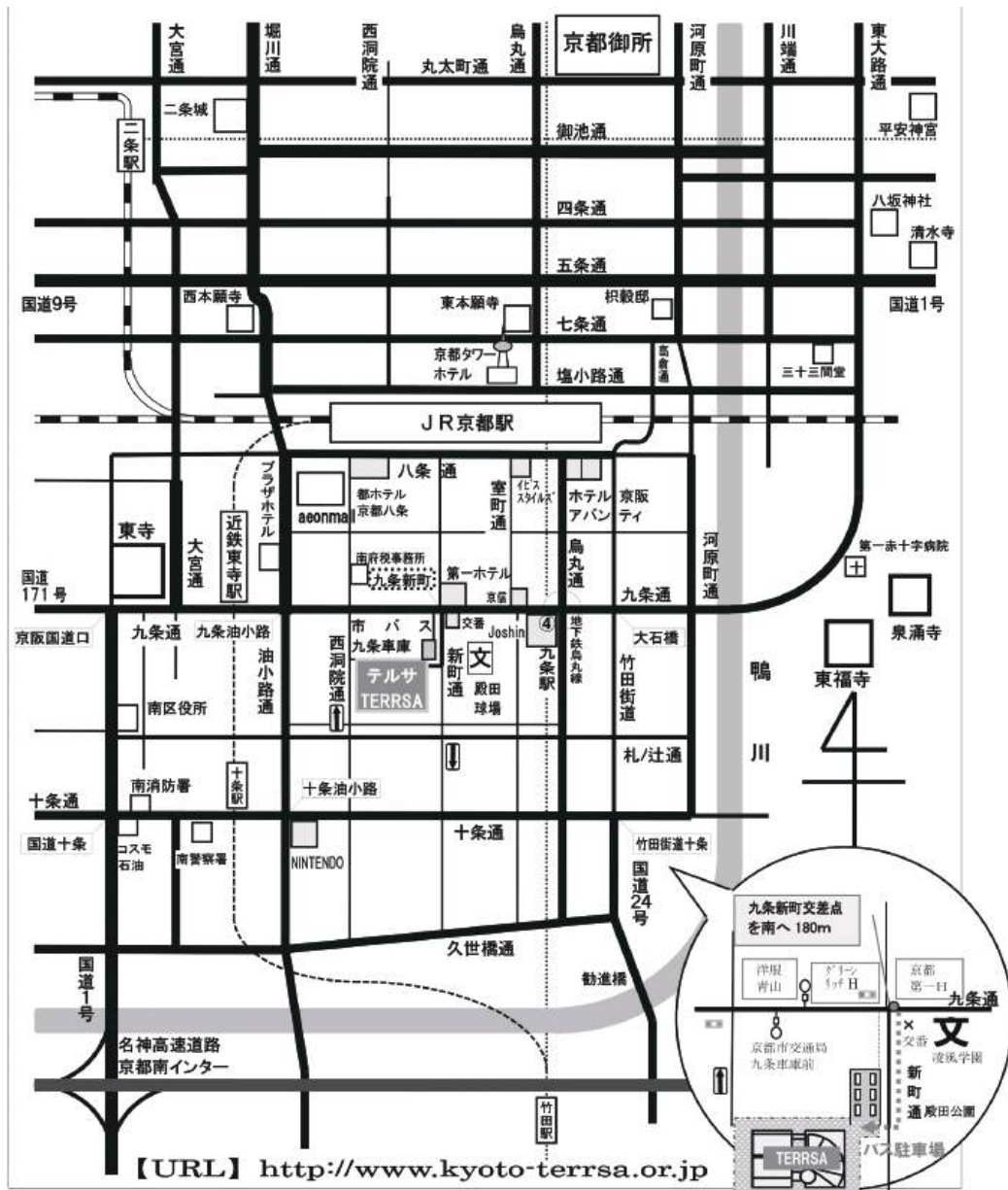
(1) 支部長 各支部に所属する本部理事の中から本部理事会により選任された者。所属する本部理事が不在の場合、各支部に所属する「本部評議員」の中から本部理事会から選任された者。

- (2) 支部幹事 各支部に所属する本部理事及び定款第9章に定める幹事並びに本部評議員の中から初代支部長が指名した者。
 - (3) その他役員 本規則に定める方法により選任された者。
 - (4) 任期は本部任期と同一とするため、初年度は1年とする。
- 5 名誉会員及び功労会員は、当該支部幹事会に出席して意見をのべることができる。ただし、議決権は有しない。
- 6 本支部会則は平成27年4月29日より施行する。

令和2年1月24日改訂

令和7年1月24日改訂

会場周辺図



京都テルサ

京都市南区東九条下殿田町 70 番地 (新町通九条下ル)

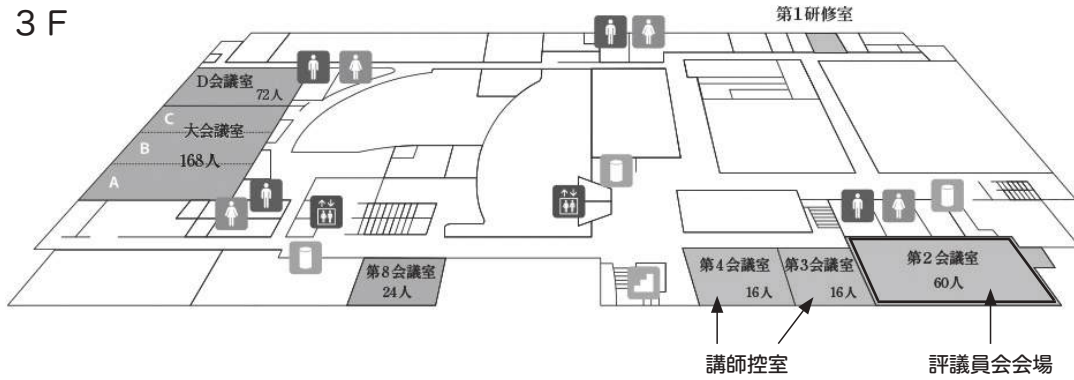
- JR 京都駅 (八条口西口) より南へ徒歩約 15 分
- 近鉄東寺駅より東へ徒歩約 5 分
- 地下鉄九条駅 4 番出口より西へ徒歩約 5 分
- 市バス九条車庫南へすぐ
- 名神京都南インターより国道 1 号北行き市内方面へ、九条通を東へ、九条新町交差点を南へ有料駐車場が地下に 180 台ございます

会場案内図

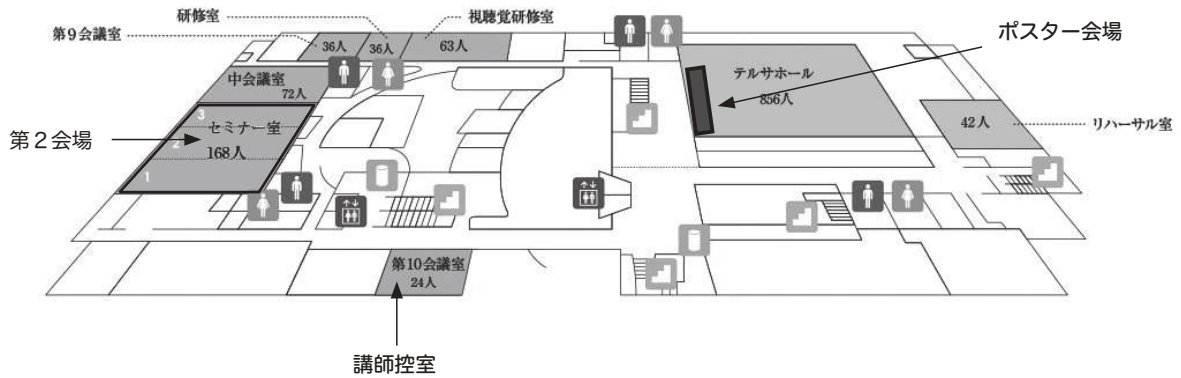
東館 EAST

西館 WEST

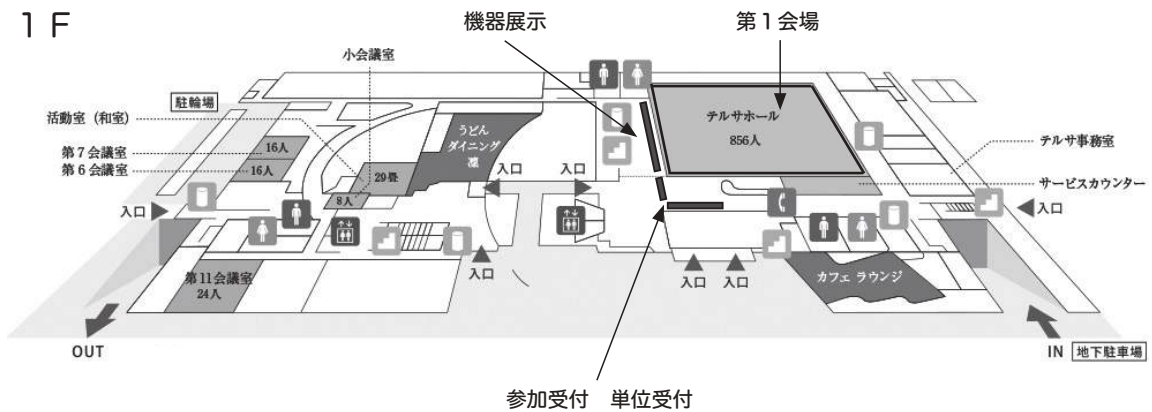
3 F



2 F



1 F



参加者の皆様へ

1. 参加受付・参加証について

参加受付：2025年2月9日（日）8：30～ 受付開始

参加費：会員医師・一般	5,000円（不課税）
メディカルスタッフ	3,000円（不課税）
非会員医師・一般	6,000円（内消費税10% 545円）
非会員メディカルスタッフ	4,000円（内消費税10% 363円）

2. 昼食について

ランチョンセミナーにてお弁当を準備いたします。

ランチョンチケットの配布はございませんので、会場前にお並びください。

数量に限りがありますので予めご了承ください。

3. 支部評議員会 12：00～13：00

会場：西館3階 第2会議室

4. 学会への入会手続きについて

発表者は本学会会員に限ります。未入会の方は学会ホームページよりお手続きをお願いします。

<http://www.jacr.jp/web/join/>

<日本心臓リハビリテーション学会 事務局>

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1-260

TEL：03-6300-7977 FAX：03-6300-7966 E-mail：jacr-society@umin.ac.jp

5. その他

託児室の設置はございません。

会場での呼び出しはできません。

会場内での撮影・録画・録音はご遠慮ください。撮影・録画は事務局の許可が必要です。

会場内では携帯電話の電源を切るかマナーモードへ切り替えてください。

会場及び会場周辺は禁煙です。

※心臓リハビリテーション指導士資格更新単位

認定更新単位は地方会参加で5単位、発表者は追加で3単位です。心臓リハビリテーション指導士、認定医、上級指導士の資格をお持ちの方に対して、参加登録時に「単位登録票」をお渡しします。必要事項をご記入の上、会期当日中に指導士単位受付までご提出ください。

※健康運動指導士および健康運動実践指導者 3単位

健康運動指導士・健康運動実践指導者証をお持ちください。

当日総合受付で受講証を発行します。

□演発表 演者・座長の皆様へ

1. 演者の皆様へ

- ・発表にご使用いただく機材はPCのみとなります。発表会場には Windows の PC をご用意します。(演台にはマウスとキーボードが用意されています)。Macintosh をご利用の場合はご自身の PC をご利用ください。なお、変換ケーブルはご持参ください。(会場では HDMI 対応。)
- ・口演で発表する方は、利益相反の申告をお願いいたします。
<http://www.jacr.jp/web/assembly/coi/> に掲載されております〈特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会「医学研究の利益相反 (Conflict of interest: COI) に関する指針」の細則〉をご確認いただき、申請見本をダウンロードまたは、同様式で作成のうえ、スライドの 1 枚目にご提示いただきますようお願いいたします。
- ・動画ファイルを使用される方は、不具合が生じることがございますので念の為ご自身のパソコンをお持参ください。
- ・発表データは Microsoft PowerPoint 2021 までのいずれかで作成してください。
- ・発表データは USB メモリにてご持参ください。
- ・フォントは Windows 標準のフォントのみをご使用ください。(特殊なフォントを使用されますと代替フォントに置き換えられ、レイアウトが崩れることがあります)
- ・PC 受付は各会場内で行います。
USB にデータを保存し各会場の所定の場所にお越し下さい。
スタッフが対応致します。ご自身の PC を持ち込むことも可能です。
第 1 会場は、舞台袖にてデータの受け渡しをお願いします。
第 2 会場は、会場内前方にパーテーションで囲われている中でお願います。
- ・発表の 10 分前までに会場内の次演者席で待機してください。
- ・ご発表時には、演台にセットされているマウス、キーボードを使用してご発表してください。
- ・「発表者ツール」の使用はできません。円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- ・発表時間厳守でお願いします。

【PC 本体持込みによる発表の場合】

- 1) Macintosh をご使用の方は、必ずご自身の PC 本体をお持込みください。
- 2) 会場で用意するプロジェクターへの外部出力ケーブルコネクタの形状は、「HDMI」です。この出力端子を持つ PC をご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。電源ケーブルも忘れずにお持ちください。
- 3) お持ちいただく PC から外部モニターに正しく出力されるか事前に動作確認を行ってください。
- 4) 再起動をすることがありますので、パスワード入力は“不要”に設定してください。
- 5) スクリーンセーバーならびに省電力設定、ホットコーナーは事前に解除しておいてください。
- 6) PC 本体を持ち込まれる場合でも、必ず PC 受付で試写確認を行ってください。
- 7) お預かりした PC 本体は、発表終了後、会場内のオペレーター席にて返却いたしますので、速やかにお受け取りください。

2. 座長の皆様へ

- ・担当セッションの 10 分前には、次座長席へご着席ください。
- ・進行を一任しますので、時間遅延のないようご協力ください。

ポスター発表 演者・審査員の皆様へ

1. 演者の皆様へ

- ・ポスター発表は、フリーディスカッションです。従来のように座長を設定しての発表ではなく、14:10～15:10の時間に、発表者ご自身のポスターの前で待機いただき、聴衆者と自由討議の形式です。
- ・発表者の方は、演題番号をご確認のうえ、演題番号ごとに指定されたパネルにポスターを掲示してください。
- ・ポスター提示用のピン、発表者用リボンは事務局にて準備いたします。

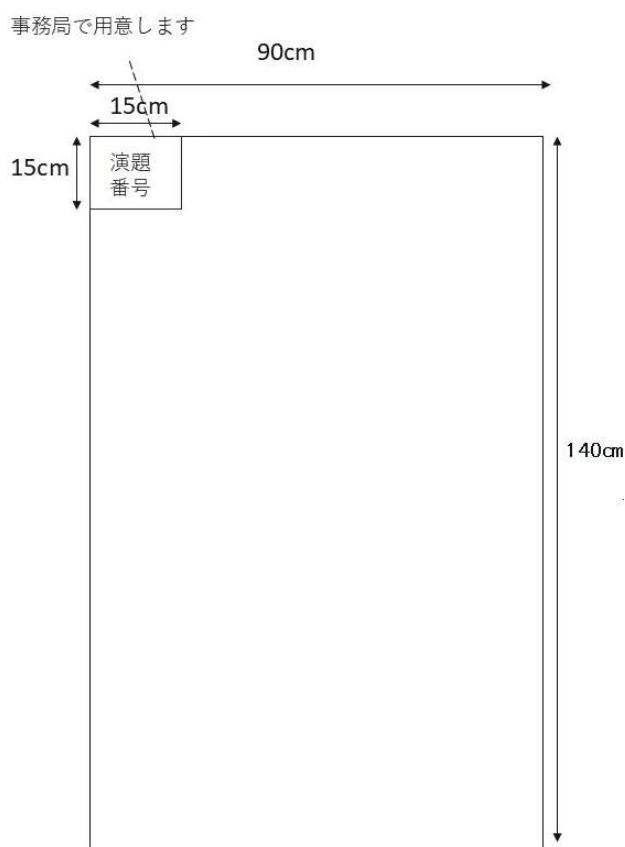
2. 審査員の皆様へ

- ・10分前には、ポスター会場（京都テルサ 西館 2F テルサホール横ロビー）にお越しください。

■ポスター掲示 140 cm × 90 cm

右図のポスターパネルをご用意いたします。貼付部分に収まるように掲示してください。（事務局では演題番号はをご用意いたしますが、演題名のパネルは用意いたしません。）

左上 15 cm × 15 cm 箇所に演題番号を貼付しますので、演題番号貼付箇所以外に収まるように作成してください。



■ポスター会場

京都テルサ 西館 2F テルサホール横ロビー

■ポスター貼付け・発表・撤去時間

貼り付け：2025年2月9日（日）9:00 から

撤去：2025年2月9日（日）16:35～17:00

撤去時間終了後に残っているポスターは、事務局にて処分いたします。

次回 第11回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会

1. テーマ：心臓リハビリテーションで全人的医療に取り組む（仮）
2. 会 期：2026年2月11日（水・祝）
3. 会 長：近藤 博和（天理よろづ相談所病院 循環器内科・リハビリテーション部）
副会長：仲村 直子（神戸市立医療センター中央市民病院 看護部）
4. 会 場：奈良県コンベンションセンター

	第一会場 (テルサホール)	第二会場 (東館2階 セミナー室1～3)	ポスター会場 (テルサホール ロビー)	評議員会会場 (西館3階 第2会議室)	
8:00	8:30 受付		ポスター掲示		
9:00	9:30 開会式				
10:00	9:45～10:45 優秀演題セッション 座長：宮脇郁子、白石裕一 審査委員： 谷口良司、民田浩一 仲村直子、笹沼直樹 黒瀬聖司	9:45～10:45 一般演題口述セッション1 座長：古川 裕、森下好美 コメンテーター： 中根英策、小林 昇 大浦啓輔			
11:00	10:55～11:55 シンポジウム1 Bridge the gaps：維持期心リハ を地域・クリニックで行う仕組み 座長：後藤葉一、近藤博和 演者：森下 瞬、中村洋貴 田中千春、田中みどり	10:55～11:55 一般演題口述セッション2 座長：野口暉夫、上坂建太 コメンテーター： 木股正樹、久保田真由美 佐々木良雄			
12:00	12:05～12:50 ランチョンセミナー1 座長：坂田泰史 演者：白石裕一 アポットメディカルジャパン合同会社	12:05～12:50 ランチョンセミナー2 座長：谷口良司 演者：民田浩一、森 直己 キャスワークス・ジャパン合同会社/ 日本メドトロニック株式会社			12:00～ 13:00 支部評議員会
13:00	13:00～13:30 会長講演 座長：野原隆司 演者：今井 優	13:00～14:00 一般演題口述セッション3 座長：高橋敬子、鷲田幸一 コメンテーター： 小林成美、田中 希 岩坂潤二			
14:00	13:35～14:05 特別講演 座長：今井 優 演者：榎田 出				
15:00	14:10～15:10 シンポジウム2 超急性期の疾患別の心リハ開始と 進行基準を考える 座長：小笹寧子、本多 祐 演者：村田 誠、谷口良司 西原浩真、白石裕一	14:10～15:10 シンポジウム3 サルコペニア・フレイルを合併する 心大血管疾患患者をつなぐ心リハ 座長：坂田泰彦、山端志保 演者：上野勝弘、岡田健一郎 小園翔大、灘浜徹哉			14:10～15:10 ポスターセッション (フリーディスカッション) 審査員： 小西治美、林 宏憲 伊藤健一、細川了平 栗本律子、井澤和大
16:00	15:30～16:30 CPX セミナー 座長：近藤博和 演者：村田 誠	15:20～16:05 スイーツセミナー 座長：栗本律子 演者：加藤恵理 小野薬品工業株式会社/ アストラゼネカ株式会社			
	16:45 閉会式	16:10～16:40 教育講演 座長：水谷和郎 演者：竹原 歩 Hyogo Psycho-cardiology 研究会			

プログラム

第10回近畿支部地方会 プログラム

第1会場（テルサホール）

開会式 9:30

優秀演題セッション 9:45～10:45

座 長：宮脇 郁子（神戸大学）
白石 裕一（京都府立医科大学）
審査委員：谷口 良司（兵庫県立尼崎医療センター）
民田 浩一（明石医療センター）
仲村 直子（神戸市立医療センター中央市民病院）
笹沼 直樹（兵庫医科大学病院）
黒瀬 聖司（関西医科大学）

EP-1 急性期心不全患者における目標座位時間達成と心不全再入院との関連
南 竜馬
地方独立行政法人 明石市立市民病院 リハビリテーション課

EP-2 肥満女性の骨格筋量評価における新基準(BMI 補正值)の有用性
河津 俊宏
関西医科大学附属病院 健康科学センター

EP-3 運動特化型デイサービスにおける心血管疾患患者の身体機能の変化
中島 友里
ビーナスクラブ徳庵

EP-4 退院直後の心不全患者が行う塩分制限の実態と認識
中西梨々花
大阪大学医学部附属病院

EP-5 外来心臓リハビリテーション患者における PHQ-9 重症度別の冠動脈疾患リスク因子の差異
大西 伸悟
加古川中央市民病院 リハビリテーション室

シンポジウム1 10:55～11:55

Bridge the gaps: 維持期心リハを地域・クリニックで行う仕組み

座長: 後藤 葉一 (北大阪ほうせんか病院)

近藤 博和 (天理よろづ相談所病院)

S1-1 循環器専門クリニックでの心臓リハビリテーションへの取り組み

森下 瞬

もりした循環器科クリニック

S1-2 医療法42条施設での維持期心臓リハビリテーション

—メディカルフィットネスSORAの取り組み—

中村 洋貴

社会医療法人 高清会 高井病院

S1-3 訪問事業を併設したクリニックで行う心臓リハビリテーションと地域診療

田中 千春

優心会 きのうクリニック

S1-4 ジャパンハートクラブ メディックスクラブでの仕組み —姫路支部の例—

田中みどり

ジャパンハートクラブ メディックスクラブ姫路支部 / 姫路獨協大学

ランチョンセミナー1 12:05～12:50

高齢心不全患者の包括的管理を考える

座長: 坂田 泰史 (大阪大学大学院医学系研究科)

演者: 白石 裕一 (京都府立医科大学)

共催: アボットメディカルジャパン合同会社

会長講演 13:00～13:30

健康運動指導士による生活習慣病予防の運動指導から心臓リハビリテーションまでの38年の経験

座長: 野原 隆司 (高の原中央病院)

演者: 今井 優 (医仁会武田総合病院 疾病予防センター)

特別講演 13:35～14:05

糖尿病と心臓リハビリテーションの関わり

座長: 今井 優 (医仁会武田総合病院 疾病予防センター)

演者: 榎田 出 (三菱京都病院)

シンポジウム2 14:10～15:10
超急性期の疾患別の心リハ開始と進行基準を考える

座長：小笹 寧子（高の原中央病院）
本多 祐（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）

S2-1 重症心不全患者の急性期心臓リハビリテーション
村田 誠
国立循環器病研究センター

S2-2 超急性期の疾患別の心リハ開始と進行基準を考える（開心術・大血管）
谷口 良司
兵庫県立尼崎総合医療センター

S2-3 超急性期心不全患者の心臓リハビリテーションを効果的に進める
西原 浩真
神戸市立医療センター中央市民病院

S2-4 下肢の浮腫について考える
白石 裕一
京都府立医科大学

CPX セミナー 15:30～16:30

座長：近藤 博和（天理よろづ相談所病院）
講師：村田 誠（国立循環器病研究センター）

閉会式 16:45

第2会場（東館2階セミナールーム1～3）

一般演題口述セッション1 心リハの運営・多職種協働 9:45～10:45

座長：古川 裕（神戸市立医療センター中央市民病院）
森下 好美（もりした循環器科クリニック）

コメンテーター

中根 英策（北野病院）
小林 昇（横山駅前ハート内科クリニック）
大浦 啓輔（のぞみハートクリニック天王寺）

- O1-1 当院における心肺運動負荷試験(CPX)による心筋虚血診断精度の検討
井上 拓也
医療法人 白岩内科医院
- O1-2 回復期リハビリテーション病院での循環器疾患患者受け入れの取り組みと
外来心臓リハビリテーションの実現
山口 功
神戸リハビリテーション病院
- O1-3 心大血管患者の退院後の転帰（外来心リハ移行率と今後の課題）
川内麻里子
西宮渡辺脳卒中中心臓リハビリテーション病院
- O1-4 当院回復期リハビリテーション病棟における心臓リハビリテーションの実態調査報告
山田 真帆
医療法人宝持会池田病院
- O1-5 テーラーメイドな心臓リハビリテーションを実現するための当院の取り組み
山本祐之介
医療法人七ふく会ふくいクリニック

一般演題口述セッション2 心リハの継続・患者教育 10:55～11:55

座長：野口 暉夫（国立循環器病研究センター）
上坂 建太（北野病院）

コメンテーター

木股 正樹（大津市民病院）
久保田真由美（関西医科大学総合医療センター）
佐々木良雄（医仁会武田総合病院）

- O2-1 心不全手帳を用いて指導を行った患者の1年以内における再入院率の報告
植田 征太
済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科
- O2-2 リハビリテーション病院で外来心臓リハビリテーションを行う意義
～急性期病院での経験を踏まえて～
石井 英
八尾はあとふる病院
- O2-3 COVID-19 流行下における当院外来心臓リハビリテーションの取り組みによる運動耐容
能とサルコペニアの評価
灘浜 徹哉
滋賀県立総合病院
- O2-4 開業医でおこなう心リハの継続実施における検討
中川 彰人
医療法人彰々会 中川内科
- O2-5 地域外来心臓リハビリテーションの継続率と役割
寺地 菜未
きのうクリニック

ランチョンセミナー2 12:05～12:50
Transforming Your Daily Practice with FFRangio

座長：谷口 良司（兵庫県立尼崎総合医療センター）
演者：民田 浩一（社会医療法人愛仁会 明石医療センター）
「心筋虚血を理解し臨床に活かす」
森 直己（大阪けいさつ病院）
「虚血評価の最前線 FFRangio® を臨床に活かす」
共催：キャスワークス・ジャパン合同会社／日本メドトロニック株式会社

一般演題口述セッション3 症例検討 13:00～14:00

座長：高橋 敬子（兵庫医科大学）
鷺田 幸一（兵庫県立尼崎総合医療センター）
コメンテーター
小林 成美（神戸大学）
田中 希（京都大学）
岩坂 潤二（長久病院）

- O3-1 中等度強度連続有酸素運動による心肺機能改善不良例に対する高強度インターバルトレーニングの有効性
小山田尚史
大津赤十字病院
- O3-2 入院早期の訪問リハビリテーション検討が退院後の円滑な連携につながった心不全患者の一例
村司憲三朗
医学研究所北野病院 リハビリテーション科
- O3-3 実際と理想の食生活のギャップを乗り越える：心不全患者の入院から退院後半年の食と
思いの質的記述的研究
山本 めい
京都大学医学部附属病院
- O3-4 心臓リハビリテーション地域連携が有効であった高齢弁膜症術後患者の一例
岩本 浩司
神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部
- O3-5 免疫グロブリン G4 関連疾患由来の急性 Stanford A 型大動脈解離に人工血管置換術を行
った患者への理学療法経験
松尾 泰知
兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部

シンポジウム3 14：10～15：10

サルコペニア・フレイルを合併する心大血管疾患患者をつなぐ心リハ

座 長：坂田 泰彦（国立循環器病研究センター）
山端 志保（京都府立医科大学）

- S3-1 急性期から生活期へつなぐ回復期リハビリテーション病院における心リハの役割
上野 勝弘
西記念ポートアイランドリハビリテーション病院
- S3-2 心不全患者を病院から地域につなぐ一訪問リハビリテーションの現状と課題—
岡田健一郎
医療法人社団ゆみの のぞみハートクリニック
- S3-3 運動特化型デイサービスにおける心疾患患者の利用状況と身体機能の変化
小園 翔大
株式会社ビーナス

S3-4 サルコペニア・フレイルを合併する心大血管疾患患者をつなぐ心臓リハビリの重要性と滋賀県での取り組み

灘浜 徹哉

滋賀県立総合病院

スイーツセミナー 15:20～16:05

心臓リハビリテーションから考える SGLT2 阻害薬の臨床的意義

座長：栗本 律子（洛和会音羽病院）

演者：加藤 恵理（京都大学大学院医学系研究科）

共催：小野薬品工業株式会社／アストラゼネカ株式会社

教育講演 16:10～16:40

座長：水谷 和郎（六甲アイランド甲南病院）

E1-1 成人先天性心疾患患者の一例から考える精神発達とメンタルヘルス支援

竹原 歩

兵庫県立はりま姫路総合医療センター

Hyogo Psycho-cardiology 研究会

ポスター会場（テルサホールロビー）

一般演題ポスターセッション 14:10～15:10

- P-1 心臓リハビリテーションの介入により、運動耐容能や自覚症状の改善に成功した微小血管性狭心症の一例
草葉 怜奈
康生会武田病院
- P-2 食事指導を受けた心不全患者の退院後初回外来から半年度までの食習慣と悪い
山下 佳恵
神戸大学医学部附属病院
- P-3 下肢運動により真腔の血流が制限され間欠性跛行を呈した偽腔開存型 B 型大動脈解離の一例
岩佐 精志
天理よろづ相談所病院 リハビリテーション部
- P-4 心筋梗塞と骨髄異形成症候群を合併、化学療法中も心リハ継続し運動耐容能、QOL を維持できた高齢者の 1 例
後藤 さやか
関西医科大学総合医療センター 健康科学センター
- P-5 急性期・回復期・外来の切れ目ない心リハが有用であった開心術後の ICU-AW 合併症例
福田 章人
医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院 リハビリテーション科
- P-6 手術適応に迷う重症心房性機能性 MR 症例に対して CPX を用いて実施した外来心リハの検討
酒井 宏樹
JCHO 大阪病院
- P-7 多疾患を合併した急性心筋梗塞例における早期離床の有効性：薬物療法の併用と多職種連携による多面的介入
三澤 菜緒
神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部
- P-8 維持期心臓リハビリテーションを継続し、ADL を維持した心不全患者の症例
鈴木 喜也
康生会クリニック
- P-9 高強度インターバルトレーニングに変更したことで運動耐容能が改善した 1 例
伊東 剛志
八尾はあとふる病院

- P-10 脊椎固定術後の起立性低血圧に心リハチーム介入が奏功した症例
森井 裕太
関西医科大学くずは病院
- P-11 心リハを契機に就労につながった成人先天性心疾患の1例
白井 文晶
加古川中央市民病院 循環器内科
- P-12 高強度インターバルトレーニング（HIIT）を実施し運動耐容能が改善した心大血管術後患者の一例
田所 智宏
兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部
- P-13 地域連携室が行う心臓リハビリテーションにおける一次予防の取り組み
松本 祐子
三菱京都病院
- P-14 多職種チームの包括的介入により在宅復帰を実現した末期心不全患者の一例
吉田 裕人
市立奈良病院
- P-15 外来心臓リハビリテーション終了後3ヶ月および6ヶ月における運動習慣の定着と再導入因子の比較検討
西村 亮汰
洛和会音羽病院
- P-16 患者の思いを基に看護外来で介入し受診継続に至った1例
嘉喜 葵
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
- P-17 CPXの活用によりシームレスなリハビリテーションが出来たことで運動耐容能に改善を認めた高齢心疾患症例
赤阪 典音
医療法人共栄会名手病院 リハビリテーション部
- P-18 術後対麻痺を合併した腹部大動脈瘤患者に対し介助歩行獲得を目指した一症例
前田 輝
滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- P-19 失神を伴う超重症大動脈弁狭窄症に対する運動療法の検討～ADL維持に努めた一症例～
西川 晃希
済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科

- P-20 アドヒアランス不良の心不全患者に対し多職種連携を行い再発予防指導を行った一例
羽田真之介
国立病院機構 京都医療センター リハビリテーション科
- P-21 内視鏡下低侵襲心臓手術（MICS）による医療スタッフの業務効率化と診療体制強化の成果
森本 喜久
北播磨総合医療センター 心臓血管外科
- P-22 地域密着型健康教室「べっぷ元気 DAY」の開催とその取り組み
天花寺祐紀
医療法人糖心会 べっぷ内科クリニック 心臓リハビリテーション部
- P-23 開心術後長期臥床を余儀なくされた患者に対し、多職種協働することで呼吸器離脱、ADLが改善した一症例
佐々木志保
医療法人 川崎病院 看護部
- P-24 心リハ継続し良好な経過を得るも不安定狭心症を発症した一例
若林 徹
関西医科大学附属病院 健康科学センター